



カトリック六甲教会 教会報

2018

7

No.559



			教会暦	六甲教会行事
7 月	1	日	年間第 13 主日	侍者練成会 11:15~15:00
	3	火	聖トマ使徒	
	6	金		初金曜日ミサ 7:00 10:00
	7	土		教会掃除 (担当: 教会学校) 結婚セミナー④
	8	日	年間第 14 主日	小教区評議会 12:00
	13	金		教会掃除 (担当: 灘北 1・北・三田)
	14	土		典礼部会 10:00 社会活動部炊き出し 10:00 教会学校 終業式 音楽奉仕者の集い 13:00 結婚セミナー⑤
	15	日	年間第 15 週日	幼児を持つ親の集い 11:00 ふれあい広場 10 時ミサ後 地区役員会③ 12:00
	16	月		教会受付休み (海の日のため)
	18	水		司祭評議会
	20	金		教会掃除 (担当: 灘北 2・阪神)
	21	土		教会学校 キャンプ準備会 結婚セミナー⑥
	22	日	年間第 16 主日	
	25	水	聖ヤコブ使徒	教区月修
	26	木		定期清掃
	28	土		結婚セミナー⑦
	29	日	年間第 17 主日	
	31	火	聖イグナチオ (ロヨラ) 司祭	

＜7月1日 福者ペトロ岐部司祭と 187 殉教者記念日＞

この日に記念する 188 人の殉教者は、江戸時代初期の 1603 年から 1639 年に日本各地で殉教した人々である。その出身地は新潟・東京・京都・大阪・広島・福岡・長崎・大分・鹿児島 の 9 教区に及んでいる。188 人のうち、司祭は 4 人、修道者は 1 人で、他の 183 人は男女の信徒で

あった。これらの信徒は、武士・農民・漁師・伝道師などさまざまな社会的立場の人々であり、家族で殉教した人々も含まれている。キリストの福音を勇気をもってあかしした 188 人は、2008 年 11 月 24 日に長崎で列福された。

			教会暦	六甲教会行事
8 月	3	金		初金曜日ミサ 7:00 10:00 教会掃除（担当：灘南・神戸西）
	4	土		結婚セミナー⑧
	5	日	年間第 18 主日	
	6	月	主の変容(祝) 日本カトリック平和旬間（～15 日）	
	9	木		教会学校 キャンプ(～11 日)
	10	金	聖ラウレンチオ助祭殉教者	教会掃除（担当：灘西・中央）
	12	日	年間第 19 主日	
	15	水	聖母の被昇天	聖母の被昇天ミサ 7:00 10:00
	17	金		教会掃除（担当：東灘北 1）
	18	土		納涼の夕べ （ミサ 17:00）
	19	日	年間第 20 主日	
	24	金	聖バルトロマイ使徒	教会掃除（担当：東灘北 2・芦屋）
	26	日	年間第 21 主日	
	31	金		教会掃除（担当：東灘南）

2018 年度 第 2 回地区役員会議事録

日時：2018 年 5 月 27 日

出席者：アルフレド主任司祭、小教区評議会議長、各地区役員

1. 納涼の夕べについて（納涼の夕べ企画チーム）
2. 受洗者・転入者への説明会 4 月 15 日報告（地区役員代表）
3. 地区懇親会報告
 - ・灘西／中央 4 月 22 日（日）11:00～12:00
 - ・東灘北 1 5 月 12 日（土）11:30～14:30

次回地区役員会 7 月 15 日（日）12 時より開催予定

- ・納涼の夕べ（8/18）最終確認
- ・掃除当番現状確認
- ・壮年会／婦人会主催バーベキュー大会（9/30）企画報告



以上

<行事報告>

春の黙想会
『イエスに出会うということ』パウロ・セコ神父(4月 28 日)

今回、春の黙想会に初めて参加させていただきました。

パウロ神父さまのお話は楽しくてわかりやすく、時間が経つのが早く思えました。ヨハネによる福音書から部分を取り出して読み、お話ししていただきましたが、ごミサやご聖体についても触れられました。

その後のごミサでは、神父さまの唱えられる一言一言がじんわりと体に染み込んでいくように感じられました。

せかせかした日常から少し離れて、ゆったり静かな時間を持つことができました。これからも与るごミサや日常で、祈りを深めていくことができれば、と思いました。(野村)

壮年会「お喋り会」(4月 30 日)

4 月 30 日 (月) pm3:00~5:15 に、第 1 会議室で、壮年会「お喋り会」が開催されました。ゴールデンウィークの真っ最中でしたので、参加者は全部で 11 名でしたが、皆さんから思い思いの発言が相次いで、楽しいお喋り会になりました。

(始めの自己紹介では) まず「最近の関心事」を披露していただき、これをキッカケに話題が広がっていききました。ご自身の健康のこと、洗礼を受けたころのこと、学生時代のころのこと、(少し進んで) 職場の思い出から奥様との馴れ初め、(終わりのころには) 最近の少子高齢化問題や政治情勢から教会の課題や天皇制の問題へと、話題はどんどん広がって、延々と続きそうな勢いでした。あっという間に 2 時間が経過し、話題沸騰中でしたが、続きは次回にして、終了しました。

自分の飲み物と食べ物は各自が持ち寄るということで実施しましたが、なかなかいいですね！ 次は秋ごろの休日に、夕方から始めたいと思っています。気楽で楽しい会合です。たくさんのご参加をお待ちいたします。(林)

～高山右近の足跡を訪ねて～
第4回巡礼 明石から茨木へ (5月12日)

幸いにも天候に恵まれた 5 月 12 日、朝 8 時 15 分に集合、2 台のマイクロバスに分乗して明石城を目指して出発しました。

到着後、地元の解説者の説明を受けながら見学させていただきました。

明石城は徳川時代の初めに築城され、天守台は築かれたものの天守は建てられなかったそうです。1585 年高槻から明石に転封となった高山右近が入った船上城は、この城の南西にあり、明石城の完成で廃城にされたそうです。当初は船上城から巽櫓が移築されたそうですが、火事で焼け、現在の櫓はその後に建築されたものだそうです。右近を偲ぶようがは残っていませんでした。

明石は空襲にあいましたが、幸いにも明石城の二つの櫓は戦火を免れたとのことでした。明石が狙われたのは、西明石に軍需工場があったからとの説明を聞き、子供の頃に疎開の為、大久保に父と車で移動中、西明石の軍需工場前を通過する時、乗客に工場を見せない様に一斉に窓の鎧戸を

降ろしたことを思い出し、改めて平和な日本に暮らせる幸せを実感しました。

私は、明石城を JR 明石駅側からしか見たことがなかったので、今回の見学で本丸に入り、予想外の広大な規模と眼下に広がる雄大な景色に驚かされました。今の 2 号線ぐらいまでが武家屋敷だったそうです。北側は鬱蒼とした森でした。

次に、右近が高槻から転封された船上城址に行きました。右近は 2 年程この城におられ、伴天連追放令により追放されたそうです。城の跡地は民間所有地で立ち入ることはできませんでした。田んぼの中に小さな塚のようなものがひっそりとあり、それがしるしでした。少し西にある教会跡といわれる宝蔵寺でキリシタン十字架なるものを見せていただきました。装飾のある十字架の中央に仏像が合掌しておられる不思議なものでした。セミナリオ跡といわれる神應寺も訪ねました。

次の目的地の茨木市千提寺に向かう途中、誰もが密かに期待していた新名神高速道路の宝塚北サービスエリア内フードコートにて昼食後、緑の山々の中をバスは走り、茨木キリシタン遺物資料館にて多くの史料を拝見し、ビデオでの詳しい説明を受け、発掘された墓碑の実物が置いてあり、刻まれた文字がはっきりと読めました。この山里には未知の遺物が隠れているのではと感じました。山深いとはいえ大坂から遠くないこの地で、秘かに大正時代まで守られていた信仰の力に心を打たれました。

その後「愛と光の家」に移動して、アルフレド神父様の司式でごミサに与り、六甲教会に 18 時過ぎに帰着しました。19 時から「主の昇天のミサ」に与り、充実した一日を過ごすことが出来ました。このツアーを準備、お世話いただいた皆様に感謝申し上げます。(久本)

～・～・～・～・～・～・～

第 4 回の巡礼に参加して一番驚いたことは、茨木のクルス山遺跡のキリシタン墓碑が大正時代になって見つかったことです。グアム島で 28 年潜伏していた横井庄一さんどころではない長い時を超えて隠れキリシタンとして生きていた人達がいたということに。

今春開通した新名神高速道路建設工事の過程で、キリシタンを葬ったと見られる墓地群が新たに発見されている。

また、茨木のキリシタン遺物資料館に残された「聖フランシスコザビエル像」の絵や「木製キリスト磔刑像」やおびたしい数のおメダイ等が残っていることから当時の高槻の領民のほとんどがキリシタンになったということが窺い知れる。

明石の宝蔵寺で見ていただいたキリシタン十字架の由来をお寺の住職さんはご存じないとのこと。明石にも隠れキリシタンがいたのかもしれない。

右近が明石に転封されて 2 年後には、バテレン追放令が出ている。秀吉の後の家康もキリシタンの弾圧を続けたため、歴史の闇の中に葬られていったのだろうか？

右近は、バテレン追放令がでたあと棄教しなかった。権力者に対して自分の意見をはっきり述べ、信仰の道を選んだということが私には驚きでした。(自分の地位も財産もすべて失う。領主が追放された場合、親戚や家臣も同時に所領や財産を失うことになっていた時代に)

キリシタン大名の多くは自分の領地や領民を守る為に棄教している。信仰を選んだ右近は純粋な人だったのかもしれない。(仲本)

祈りと音楽の集い～聖霊の息吹～ (5月27日)

カトリック六甲教会の『祈りと音楽の集い～聖霊の息吹～』に聖歌隊の一員として賛助出演する機会を得ました。実はお誘いを受けたときには、お断りをしようかとも



思ったのですが、シューベルトの『ドイツミサ』を歌うことを知って、参加させて頂くことにしたのでした。

『ドイツミサ』は私の大好きな曲です。十数年前に地元の男声合唱団で歌ったことがあります、混声合唱で歌うのは今回が初めてです。さらに『ドイツミサ』の他にも、典礼聖歌「風がどこから」とカトリック聖歌「あめのきさき」も初めて歌う曲なので、練習が始まるのが楽しみでした。

4月7日に聖歌隊の初顔合わせがあり、いよいよ練習が始まりました。1回目の練習はイグナチオホールで行なわれましたが、2回目からは聖堂での練習になりました。

このホールは、私の所属する神戸土曜会合唱団が、1977年から2004年まで毎年『チャペルコンサート』を開いていた懐かしい場所なのです。久しぶりに響きの良い聖堂で歌うことができるのは嬉しいことでした。聖歌隊指導者の三浦先生の丁寧なご指導で、本番までの7回の練習はとても楽しい時間でした。

こうして本番当日を迎えました。第一部はオルガン・ソロとアンサンブル六甲によるグレゴリオ聖歌に続いて、いよいよ聖歌隊が登場。パイプオルガンの伴奏で、気持ちよく歌うことができました。第二部はヴァイオリン・ソロ、女声合唱、独唱、二重唱、オルガン・ソロと、変化に富んだプログラムで、聖歌隊は出番を終えた後とあって、ゆったりとした気分で楽しむことができました。素晴らしい演奏会でした。皆さん、どうもありがとうございました。(鈴木)

～・～・～・～・～・～・～・～

緑したたる5月、晴天の午後。100人を超える方々が、聖霊に集われ「聖霊の息吹」に包まれました。

8人の男性賛助者の加わった六甲聖歌隊の歌声は素晴らしく、「感動して毛穴が開いたみたい」とか、「ラテン語はよく判らないがレベルの高いハーモニーにウトウトしてしまった」と、言う方もおられました。

第2部の「ヘンデルのヴァイオリン」の生き生きした演奏は、オルガンと共に18世紀へ、「ブラームスの聖体賛美」「ラインベルガーのマリア賛歌」は、その澄んだ清らかな歌声と共に祈りの世界へ、最後の「バッハのフーガ」は力強い栄光の主の世界へと導いてくださり、皆で唱和した「アヴェ・マリア」は、全員の心の叫びとなりました。

これからも、恵みのうちに、この集いが続きますように、願っております。(都倉)

社会活動部学習会 「キリスト教とイスラーム教の対話に必要な理解」(6月3日)



6月3日(日)、ミサ終了後の12:00～13:00すぎまで社会活動部主催の学習会「キリスト教とイスラーム教の対話に必要な理解」が開催されました。

講師は、エリザベト音楽大学のフランシスコ・アント神父。母国インドネシアはイスラーム教国です。会場の第1、2会議室が溢れんばかりの盛況でした。

テーマはふたつ

- 1 宗教を持つということの意味
- 2 キリスト教とイスラーム教の中心的教義

資料に沿って分かり易く、キリスト教とイスラーム教の共通する点と異なる点をご教授いただき

ました。

宗教の3つの要素（①教義、②典礼・儀式、③実践）のうち、実践が大切であることは共通。ユダヤ教を含め、3つの宗教は同じ祖先をもち、共通する部分も多いが、進め方を誤ると戦争にまで至る恐れがあるのは、昨今の歴史が物語るところです。

イスラームでは、聖典クルアーンを暗記することが要求されますが、キリスト教では暗記することとは要求されない、とは言いながら、やはり聖書をしっかりとよく読むことは大切であると再認識させられました。

講義の最後に、キリスト教・イスラーム教の共生の例としての音楽を聴きました。

キリスト教音楽（カッチーニの「アヴェ・マリア」のソプラノ）とイスラーム音楽（ボーイソプラノ2人）の共演で、とてもきれいな曲でした。ユダヤ人で世界的ピアニスト兼指揮者であるバレンボイムとエジプト人を父に持つコントラバス世界 No.1 奏者であるシェハタ・ナビルの二人が協力して、パレスチナで子供たちだけのオーケストラを結成した話を思い出しました。

最後の質疑では、「イスラーム教が勢力を伸ばしている背景は何か？」とか、「イスラーム教徒とキリスト教徒の結婚は許されるのか？」などの現実的な質問が飛び出しました。

この後、部屋を変えて、お茶とお菓子が用意された懇親会が続き、ここにも30名近くの方が参加されて、自由な意見交換が続きました。

日頃教えられることの少ないイスラーム教について、キリスト教との対比の中で、ポイントを教わり、とても良い学習会になりました。

幸い、私たちの住まう国際都市神戸は、宗教の面でも国際都市です。カトリック教会、プロテスタント教会、ユダヤ教会、イスラーム教会、さらにはロシア正教会、ジーナ教会、シーク教会から、日本の神社仏閣はもちろん、中国関帝廟まで、いろんな宗教施設が揃っています。

今回の学習会をきっかけに、宗教面の国際性も磨いていきたいと感じました。（林）

～．～．～．～．～．～．～．～．～

2018年6月3日のキリストの聖体の祝日のミサ後の講演会は、会場一杯の聴衆が参加され、このテーマに対しての熱意を感じる盛況ぶりであった。

講師のアント神父は世界最大のイスラーム国インドネシアの出身である。父親がイスラーム教からカトリックへの改宗者だったことからイスラーム教に関心を持ち、エジプトでアラビア語とイスラーム教を学び、その後ジャワ島のイスラーム寄宿学校に3年間滞在して博士論文を書いた。今回はアブラハムを始祖とする3宗教「ユダヤ教」「キリスト教」「イスラーム教」を比較しながら解説してくださった。以下、講義の抜粋である。

まず「宗教」の概念についてお話ししたい。宗教には信仰と共同体という2つの要素がある。信仰とは「人間自然を超えた存在（神）を信じる、帰依する」ということである。これに対し共同体とは、「教義」「典礼・儀式」「実践」を同じくする人の集まりである。信仰はあるが、共同体には属さないということでは宗教とはいえない。教義や儀式は宗教によって異なる。キリスト者にとって「イエス（アラビア語ではイーサー）」は救い主であるが、ユダヤ教ではラビの一人に過ぎず、イスラーム教では預言者の一人である。儀式でも、ユダヤ教の安息日は土曜、キリスト教は日曜、イスラーム教は金曜である。食べ物でも、ユダヤ教は豚やうろこのない水中動物を食べず、イスラーム教では豚肉やアルコールを拒否する。キリスト教はイエスがおっしゃったように「外から入るものが人を汚すことはない」と考え、食物のタブーはない。

このように「教義」や「儀式」には共通性がなく、それぞれ相手を否定し始めると戦争になってしまう。しかし「実践(Praxis)」はどの宗教でも「平和・正義・平等」に重点がある。宗教間の対話は実践を中心にするのがよい。

もう一つお話ししたいことはイスラーム教とキリスト教（カトリック）との関係である。アブラハムには2人の妻がいて、サラから生まれたイサクの子孫がユダ族であり、ユダヤ教からキリスト教が生まれた。もう一人の妻ハガルから生まれたイシュマエルの子孫がアラブ人でそこからムハンマド（モハメッド）が生まれた。旧約聖書では、サラが正妻でハガルは女奴隷とされているが、イスラーム教ではどちらも正妻である。

このような近い関係があるので両者には類似点が多い。どちらも「唯一の神」を信じる。カトリックは「父と子と聖霊の御名によって」と十字を切るが、イスラームでは「慈悲深く慈愛あまねき神の御名において」という決まり文句がある。ミサ中に平和の挨拶があるが、イスラーム教徒は「アッサラーム・アライクム（平和があなたの上に）」という挨拶をする。

キリスト教では神のことばが天使ガブリエルを通じてマリアに下り、（みことばである）イエス・キリストが生まれた。イスラーム教でも、神のことばが天使ジブリール（ガブリエル）を通してムハンマドに下り、クルアーン（コーラン）という書物・聖典が生まれた。ムハンマド自身は字が書けなかったので暗記して伝えられた。ムハンマドの言行録はハディースで、イエスの言行録が新約聖書の福音書である。このように両者の構造は対応している。両者とも偶像崇拜を禁止するがその解釈は違う。イスラームは一切の像を禁じるが、カトリックでは思い起こす手段として聖像を置く。



イスラーム教でも、神が預言者に神の啓示を与え、ムーサ（モーセ）に律法を与え、ダウード（ダビデ）に詩編を与え、イーサー（イエス）に福音を与えたことは認める。しかし現在残っている聖書は本物ではなく、ムハンマドがクルアーンの中に記録したものだけが唯一の神の言葉である。例えばクルアーンの19章は「マルヤム（マリア）章」でイーサー（イエス）の誕生などが書かれている。ただし、当時アラビア半島には、「キリストには神格と人格の2つの位格がある」と考えるネストリウス派という異端が多く住んでいたため、十字架上で死んだのは人間としてのイエスであるとするなど、その影響を受けている。

アント神父は、「われわれはカトリック者として、宗教の概念をしっかりと把握するとともに、信仰の中心であるイエス・キリストのことを、聖書を通して学び祈ること。そうすれば行動がイエスと一致する」と結んだ。図解を多用された明快な講演で、聴衆は納得された雰囲気、多くは有意義な学習会であったとの感想だろう。

質問：最近イスラームの勢力が強くなっているのはなぜか？

答え：いくつか理由があるが、まずイスラーム教徒が結婚を義務と考え、しかも子沢山であることがある。また、イスラーム諸国でオイルが産出して経済的に豊かになったこともある。さらに、イスラームから他宗教に改宗することを許さず、国によっては殺されることもある。こうしてイスラームの勢力は増えつつある。

質問：イスラーム教徒とキリスト者との結婚はありうるか？

答え：イスラームの男とキリスト者の女との結婚は許されるが、その場合、女性はイスラーム教

に改宗しなければならない。男性は強いので、女性は男性に従うと考えられている。逆は許されない。
(小柳)

神戸地区大会「150^{いこう}リスタート！新再宣教！」(6月10日)

6月10日(日)、2018年カトリック神戸地区大会が開催されました。雨が心配されたにもかかわらず、神戸地区の11小教区から約530名の方が会場である篠山市たんば田園交響ホールに集合し、六甲教会からも約40名の参加がありました。

第1部では前田大司教司式によるミサがささげられ、第2部では、バンド演奏、吟詠、阿波踊り、俳句コンテストなどのイベントが行われました。「教会ふしぎ発見！」と題した小教区対抗クイズ大会では、明石教会と六甲教会が同点1位となりました。

神戸地区の方々が一堂に会し、再宣教150周年を記念するとともに、まさしくその150年前の再宣教が始まったこの神戸の地から、地区一丸となって新再宣教のスタートを切る良い機会となりました。
(木藤)

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

7月4日(水) 10時 手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでも参加ご自由です。

7月14日(土) 10時 炊き出し(イグナチオホール 台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話相手や配食だけでもOKです。

7月15日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場(イグナチオホール)

7月27日(金) 9時半 ともしび会(イグナチオホール台所) 施設の子どもたちへのケーキ作り



ご報告

日本国憲法改憲の動きに反対するための署名に多くの方からご協力いただき、お陰様で243名の署名が集まりました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。
(社会活動部)



社会活動委員会ってな～に？

5月26日(土) 13時～16時まで、カトリック大阪大司教区全地区(77教会)の社会活動委員の集まりが大司教区本部事務所で行われました。その中で、アベイヤ神父様が、社会活動の原点についてお話されました。

社会活動委員会には 3つの役割があります。

- ◆ 知る 社会で、世界で、どんな問題があるのかを知り、伝える。
(例えば、難民問題、戦争と平和、貧困の格差、子どもの虐待 など)
- ◆ 学ぶ 具体的な事柄の中で賛否両論があるようなテーマについては、共同体の中で

- 自由に勉強し話し合えるような場を設ける。必要なら講演会などを開く。
- ◆ 行動 実現可能なことから行動する
- 社会活動委員だけが行動するのではなく、共同体の誰もが望めば参加できるようにお手伝いする。社会活動委員は誰もが一步進みたいという時のその一步をサポートする。

言わば、社会活動委員会とは、教会の社会福音化のための“しるし と 道具”にすぎないのです。

六甲教会の社会活動委員として果たして道具としてその使命を果たしているだろうか、福音化に向けてアピールしているだろうか、と反省するいい機会でもありました。しかし、私一人が考えるのではなく、神戸地区社会活動委員の仲間（シナピス神戸）と共に、年に4回の定例会を通じて問題提起をしたり、意見交換をしたり、行動したりしています。具体的に言うと、行動の点では

「炊き出し」です。これは、神戸地区の各教会が毎月何曜日は、〇〇教会、というようにローテーションしています。社会活動の予定を毎月教会報で呼びかけておりますが、なかなか新しいかたの参加が少なく、「決まったメンバーの社会活動委員でいつもやってくれているから」と思われると残念です。それでも6月の炊き出しの前日、中高生会のリーダーから電話があり、「明日の炊き出しに中高生4人参加してもいいですか？」という大変嬉しい知らせがありました。当日の炊き出しは若い人たちも一緒にお台所から参加し、一生懸命野菜を切ってくれて、現地の小野浜では 嬉しそうにおじさんたちに中華丼を配食をしてくれました。

また、上記した「知る」「学ぶ」の点では、昔から現在に至るまで絶えない中東戦争、その平和に向けて、先日講演会“キリスト教とイスラーム教の対話に必要な理解”を開きました。

社会活動委員は、問題提起に向けていろいろな情報にアンテナを張っています。さて、今度は子どもの虐待についてです。新聞、テレビでは痛ましいニュースが報道されています。それについて学ぶ機会が7月7日垂水教会で用意されていますので、詳しくはちらし、掲示板をご覧ください。

社会の谷間にいる人々に目を向け、助けられる人は、みなさんすべての上にあるのです。老人ホームで歌を歌ってさしあげるのも社会活動の一つ、お年寄りに席を譲るのも社会活動の一つ、近所で泣いている子がいたらそれに目を留めるのも社会活動の一つ、至る所で、福音を広め社会を明るくしていきたいものです。まさにアーメン、ハレルヤ！「世界のみんな隣人さ、倒れるものは助けながら、主に向かう心の愛は一つ、みんなのもの」

(井川)

神戸地区社会活動委員会（シナピス神戸）移動学習会のご案内

『こどもが生きる力』を守る

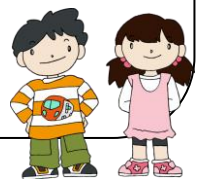
～誰もがありのままに受け入れ合うかわりを求めて、わたしたちにできること～

講師 荘保 共子さん 認定NPO法人「こどもの里」理事長

日時：2018年7月7日（土）13：00～14：30

場所：カトリック垂水教会 聖堂 （ポスターをご覧ください。）

参加費：無料 事前の申し込みは不要です



★典礼部より★

朗読奉仕者の方の事前練習について

昨年に引き続き、第2回目の朗読奉仕者の方の事前練習を、次の通り実施いたします。

- ・ 8月5日（日）から2ヶ月間、毎日曜日10時ミサ前（9：30～9：45の間）に朗読の事前練習を行います。
- ・ 当日の10時（日）ミサ担当の朗読奉仕者お二人の方は、9：30までに聖堂にお集まり下さい。
- ・ 事前練習の時は、典礼部担当者が同席させていただきます。

典礼奉仕者の方へ大切なお知らせ

去る、4月21日（土）の典礼部会で、『典礼奉仕者の奉仕時間帯の変更について』提案がありました。これまで、典礼奉仕者は決まった時間のミサで奉仕していましたが、これからは全ての時間帯で奉仕が当たると考えております。既に3年前から、音楽チーム（オルガン、独唱）の奉仕者の方が全ての時間帯で奉仕されており、色々な時間帯を経験することによって技術的な面が磨かれ、各自の役割も深められ、結果的に良かったとの意見が出されています。

検討の結果、年度内の実施を目指して、次のように進めることになりましたので、典礼奉仕者の方へ報告いたします。

9月9日（日）12:30からの典礼奉仕者の集いで、皆さんで話し合っって段階的に変更していこうと考えています。この変更は、奉仕者ご自身の役割を深め、新たな信徒同志の交流が生まれ、教会共同体が活性化することを目的としています。また、奉仕の回数の偏りがなくなり、各奉仕者の負担を平等化できます。最初は、不安を感じられるかもしれませんが、ご理解とご協力をお願いいたします。（堤）

教会報 8月号の発行は、7月29日（日）です。 原稿は7月15日（日）までに教会受付へご提出 ください。FAX 及びメールでも受付いたします。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会		
	〒657-0061	神戸市灘区赤松町 3-1-21	
	電 話	0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6	
	F A X	0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3	
	Mail address	renraku@rokko-catholic.jp	
発行責任者		アルフレド・セゴビア	
編 集 広 報 部			